

外務省外交史料館

Diplomatic Archives
The Ministry of Foreign Affairs of Japan



〒106-0041 東京都港区麻布台1丁目5番3号

電話 03 (3585) 4511 (代)

FAX 03 (3585) 4514

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/>

概要

外交史料館は、わが国外交において歴史的価値のある記録文書を保存管理し、利用に供するとともに、外交史料の編さんを行う外務省の施設です。所蔵する特定歴史公文書等には、「戦前期外務省記録」を中心とする幕末から第二次世界大戦終結までの記録と、歴史的価値があるとして受け入れた戦後期の外交記録文書があります。

沿革

外交史料館は、外務省の一施設として、昭和46年(1971)4月15日に開館しました。昭和63年(1988)7月5日には展示室、収蔵庫等を備えた別館が増設されました((財)吉田茂国際基金より寄贈)。また、平成13年(2001)には、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」(情報公開法)の施行に伴い、総務大臣より歴史的な資料を適切に保存管理する施設に指定されました。

そして、平成23年(2011)4月1日、「公文書等の管理に関する法律」に基づき外務省の特定歴史公文書等の管理を行う施設として、外務大臣の指定を受けました。これにより、外交史料館は、国立公文書館に類する機能と役割を担う外交の公文書館となりました。

利用案内

1 閲覧

所定の手続の後閲覧することができます。

2 展示

幕末から第二次大戦終結までを中心に、日本外交の足跡を示す外交文書等および吉田茂元総理の遺品や関係資料を別館展示室で展示しており、どなたでも見学できます。

3 複写

所蔵史料の複写を希望する方には、別に定めるところによりこれに応じます。また、閲覧室にてお手持ちのカメラで史料を撮影することもできます。

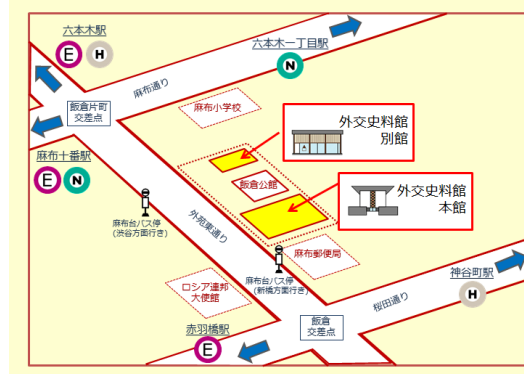
4 開館時間

月曜日から金曜日 10:00 ~ 17:30

5 休館日

土曜、日曜、国民の祝祭日、年末年始(12月28日~翌1月4日)および臨時の休館日として公示した日。

案内図



東京外口南北線六本木一丁目駅より徒歩8分
東京外口日比谷線神谷町駅・六本木駅より徒歩10分
都営大江戸線六本木駅より徒歩10分

活動

1 史料の閲覧及びレファレンスサービス

本館閲覧室において「外務省外交史料館利用等規則」および「外務省外交史料館利用細則」に基づき、当館所蔵史料の閲覧ができます。また、国内外の研究者および一般の方からの所蔵史料や外交史に関する問合わせに応じています。



閲覧室

2 史料の展示

別館展示室において、日本外交史上の重要な史料の展示を行っています。常設展示では、幕末から第二次世界大戦終結までを中心に日本外交の足跡を示す代表的な条約書、国書・親書、外交文書等のほか、吉田茂元総理の遺品、関係資料などを展示しています。また、テーマを決めた特別展示・企画展示を定期的に開催しています。

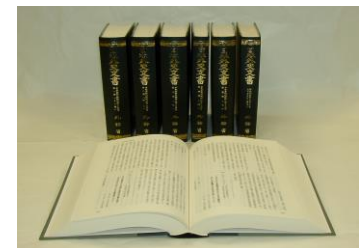


別館展示室

3 『日本外交文書』の編さん・刊行

外交上の主要な文書を総合的に編さんした『日本外交文書』を暦年順および特集形式で刊行しています(平成30年1月現在で既刊218冊)。

『日本外交文書』は、昭和11年(1936)に第1巻が刊行されて以来、明治・大正・昭和戦前期の編纂を完結し、現在は戦後期の編さんを進めています。このような外交文書の編さん・刊行は、諸外国でも国の事業として外交担当省庁が実施しており、たとえば、アメリカ合衆国では *Foreign Relations of the United States*、イギリスでは *Documents on British Policy Overseas* (戦後期)を刊行しています。



『日本外交文書』

4 アジア歴史資料センターへの史料の電子画像データの提供

国の機関が所蔵する歴史資料をインターネットで公開するデジタルアーカイブであるアジア歴史資料センターに、戦前期史料約34,300冊及び条約書550件分の画像を提供済みです。戦後期史料についても平成28年より順次提供し、同センター充実への協力を継続しています。

主要所蔵史料

1 戦前期外務省記録・戦後外交記録

外務省創設以来の外交活動にともなう戦前期の在外公館との往復電報・公信などの文書類を外務省独自の分類方式で整理しファイリングした戦前期外務省記録・調書等(約48,000冊)および、昭和51年(1976)以来の外交記録公開制度や平成22年(2010)5月に制定された「外交記録公開に関する規則」のもとで公開された戦後外交記録(平成30年1月時点で約54,000冊)が当館所蔵史料の中核を占めます。作成・取得から30年が経過した歴史的価値のある外務省の記録文書を順次受け入れています。



外務省記録

2 「通信全覧」と「続通信全覧」(重要文化財)

幕末の外交関係を知る上で欠かせない外交史料集が「通信全覧」と「続通信全覧」です。「通信全覧」は、開国後の安政6年(1859)と万延元年(1860)の外交文書を徳川幕府が編集したもので、全320巻。「続通信全覧」は「通信全覧」の後をうけて、文久元年(1861)から慶応4年(1868)までの編年文書に、修好・貿易などの事項別部門を加えて外務省が編集・分類したもので、1,784巻を数えます。

3 条約書

修好・通商・政治・経済など多方面にわたる幕末から第二次大戦終結までに締結された戦前期の条約書約600件を所蔵しています。日米修好通商条約(安政5年(1858)/重要文化財)、日清修好条規(明治4年(1871))、日露講和条約(明治38年(1905))などの二国間条約、ヴェルサイユ講和条約(大正8年(1919))などの多数国間条約があります。

4 国書・親書

幕末以降戦前期の国書・親書(国家元首間にやりとりされた書簡)約1,100通を所蔵しています。その中には、文久元年(1861)ハリス公使帰国につきアメリカ大統領リンカーンから徳川14代将軍家茂にあてた親書や、文久3年(1863)ロッシュ公使の新任に際しフランス皇帝ナポレオン3世から家茂にあてた親書などがあります。



日米修好通商条約

5 吉田茂元総理関係資料

昭和63年(1988)7月以来、(財)吉田茂国際基金より寄贈された吉田茂元総理の書翰、書および写真等関係資料約320点を所蔵しています。